交流を拡大する魅力ある中部のかたち

国土形成計画シンポジウム

開会挨拶

国土交通大臣政務官
藤野　公孝

基調講演

「人々の交流と魅力ある国づくり」
～愛・地球博から学ぶ～

異文化コミュニケーター
愛・地球博広報プロデューサー
マリ　クリスティーヌ氏

パネルディスカッション

「交流の拡大と新たなライフスタイルから
考える魅力ある国づくり」

【パネリスト】（50音順）

英文情報誌「アベニューズ」編集長
佐藤　久美　氏

東海旅客鉄道(株) 相談役
須田　　寛　氏

異文化コミュニケーター
愛・地球博広報プロデューサー
マリ　クリスティーヌ　氏
（*Mari Christine*）

【コーディネーター】

中日新聞社　常務取締役編集担当
小出　宣昭　氏

会場風景

会場外観

受　付

会場内

■パネリスト(50音順)

英文情報誌「アベニューズ」編集長
佐藤　久美氏

■経歴
名古屋大学大学院国際開発研究科博士前期課程(国際協力専攻)修了
愛知淑徳大学、名古屋文化短期大学、金城学院大学等の非常勤講師
特定非営利活動法人「愛知善意ガイドネットワーク」副理事長
愛知万博「愛知万博ー市町村ー国フレンドシップ記録映画製作事業」プロデューサー
※「AVENUES」は1985年に創刊、これまでに120号を発刊(2006年11月現在)。
中部地域を観光やビジネスで訪れる外国人や在住外国人に、日本の文化、伝統、生活などを紹介。

■役職
国土審議会中部圏整備部会委員
国際交流大都市圏構想策定委員会委員
中部国際空港アクセス利便性向上対策協議会委員　他

東海旅客鉄道㈱相談役
須田　寛氏

■経歴
京都大学法学部卒業、日本国有鉄道入社
日本国有鉄道 名古屋鉄道管理局長
日本国有鉄道 旅客局長
日本国有鉄道 理事(常務理事)
東海旅客鉄道株式会社 代表取締役社長
東海旅客鉄道株式会社 代表取締役会長
東海旅客鉄道株式会社 相談役
■主な著書等
「新・観光資源論」交通新聞社
「産業観光読本」交通新聞社
「新しい観光」交通新聞社
■役職
国土審議会調査改革部会委員（～平成17年）
国土交通中部地方有識者懇談会座長
日本観光協会中部支部長　名古屋商工会議所文化委員長　他

異文化コミュニケーター
愛・地球博広報プロデューサー
マリ クリスティーヌ氏

■経歴
上智大学国際学部比較文化学科卒業
東京工業大学大学院理工学研究科社会工学専攻修士課程修了。今現在も都市工学を学んでいる。
国連人間居住計画(ハビタット)親善大使に任命される。
2005年日本国際博覧会 広報プロデューサーに任命される。
あいち海上の森センター 名誉センター長 就任

■主な著書等
「お互い様のボランティア」　「ありがとう愛・地球博」
「愛・LOVE・フレンドシップ－異国 抱きしめてー」

■役職
国土審議会首都圏整備部会委員
観光立国懇談会委員
愛・地球博 理念継承エリア検討委員会委員　他

■コーディネーター

中日新聞社常務取締役編集担当
小出　宣昭氏

■経歴
早稲田大学第一政経学部卒業、中日新聞入社
中日新聞 編集局長
中日新聞 取締役編集局長
中日新聞 常務取締役編集担当

■主な著書等
「あいちの政治史」　「ペレストロイカは今」　「ニュースを食え」

■役職
国土交通中部地方有識者懇談会委員
愛・地球博 理念継承エリア検討委員会委員　他

シンポジウム抄録

■ 開会挨拶
■ 基調講演
■ パネルディスカッション

国土交通大臣政務官
藤野 公孝氏

皆さん、こんにちは。

私はただいまご紹介賜りました、国土交通大臣政務官、参議院議員の藤野公孝でございます。私はいま、何十年ぶりに足袋を履いておりまして、緊張いたしましたが、一言、主催者を代表しましてごあいさつを申し上げます。

今日は文化の薫りいっぱいの能楽堂での国土形成計画シンポジウムということでお集まりくださいまして、まことにありがとうございます。この中部圏は、大変元気のいいブロックでございまして、皆様方の日ごろのご精進、ご努力の結果ということで、心から敬意を表する次第でございます。また、この地域の皆様におかれましては、日ごろから国土交通行政に対しまして、いろいろご協力賜り、本当にありがとうございます。

ご承知のように、国土交通省は、旧建設省、運輸省、北海道開発庁、国土庁、４省庁が一緒になってできた省庁でございます。私は、旧運輸省の出身の人間でございますが、私も国土庁に出向したことがありまして、全国総合開発計画を担当した経緯もありまして、また、政務官になって、この役所にお世話になり、その担当が「国土形成計画」。今度は名前が「形成計画」という耳慣れない言葉になっています。昔は「全総計画」と言いましたが、その担当になるということで、何か、縁というか、運命というか、そういうようなものも感じているところでございます。

新しい計画「国土形成計画」は、全国一体としてつくる全国計画、これは国でつくりますが、それと、ブロック単位ごとの広域地方計画の、二層立てでご議論いただくことになっております。まず、全国計画は来年度夏頃を目処にしておりまして、偶然ですが、昨日、計画部会で中間報告がまとめられたということを伺っております。この辺につきましても、今後きっちりとした全国計画をつくり、そして、この中部圏のみならず、全国８つのブロックでそれぞれの広域地方計画ができることを願っているわけでございます。

この国土形成計画につきましては、期待も大きいと同時に、絵にかいた餅にならないようにということも常に言われているわけですが、地域ビジョンを積極的に議論して中身を詰めていくということで、中部ブロックでは、今回が３回目のシンポジウムということで「交流を拡大する魅力ある中部のかたち」というテーマを立てさせていただいております。新しいこの圏域は、長野、岐阜、静岡、愛知、三重の５県で中部ブロックを形成するということが決められておりますが、このブロックが、東アジア等の国際交流といいますか、人間の交流といったところから、将来の中部のあり方というものが見えてくるのではないかと思うわけであります。

全国的には、毎日のように人口減少社会、高齢化社会と言われておりますが、この中部だけは本当にどこの国のブロックかというぐらい元気でございまして、中部国際空港あるいは愛知万博等々でにぎやかでもありました。今後もこのような元気をものづくりの形でしっかりと引き継いで、着実に日本を引っ張っていく機関車としてのブロックであることを期待しているわけでございます。今日、このシンポジウムは３回目と申しましたが、まず、ご講演をいただくことになっておりますのが、私もかねてよりいろいろご交誼を賜っておりますマリ・クリスティーヌ先生。皆さんもテレビ、雑誌等でよくご存じと思われますが、この先生は愛・地球博の広報プロデューサーという経験もございまして、「人々の交流と魅力ある国づくり」ということで講演されると伺っております。その後、パネルディスカッションで、「交流の拡大」、「新しいライフスタイルの追求」といったキーワードで、魅力ある地域づくりの議論がなされるということで、大変期待が持てると思っております。

どうぞ、このシンポジウムをきっかけに、また皆さんの関心がより一層深められまして、国土形成計画、ブロック計画が中身のある良い取りまとめになりますようにご協力賜ります。最後に、重ねて、今日ご出席賜りましたことを心から歓迎し、御礼申し上げまして、一言ごあいさつといたします。本日はほんとうにありがとうございます。

「人々の交流と魅力ある国づくり」～愛・地球博から学ぶ～

マリ クリスティーヌ氏

皆様、こんにちは。よろしくお願いいたします。

この能楽堂でお話をさせていただくと、いつも緊張しますのは、何をお召しになりますかといつも言われるんです。スーツですと、ソックスをはいてほしいと、お着物だったらば足袋でと。だけど、できればストッキングでと申し上げると、だめです、ソックスですということと、あと、歩いてくるときはすり足で歩いてくださいと言われまして、非常に伝統あるといいますか、非常に厳かな気持ちになるんですけれども、大変緊張もいたします。

あまり着なれない着物も今日は着させていただいていますけれども、前回出たときは、こちらの松ではなくて若松でぴんと立っていたんですけれども、ここも両方出されるということで、外国の方をこちらにお連れしますと、そういう説明ができるので、そういう点では非常にいい交流ができます。そういう材料提供がたくさんここにあるということも大変うれしいことです。

最近、東京の国立能楽堂の中で、外国人の方々、そして、日本の方もいらっしゃいましたが、シートの後ろに画面が出まして、英語でせりふが出てくるんです。これを見ていますと、これはこういうことを言っているんだということがわかり、「土蜘蛛」という題のお能の舞台でした。初めて英語で出たものですから、こういう物語だったのかと。今まで見ていても、いつもとってもきれいな姿だなとは思ってはいましたが、意味がよくわからなくて、それで、たまたまそばにいた方が、「あれ、１回投げるときに8,000円ぐらいかかるんだよ」と教えてくれました。余談ではありますが、話題としては楽しいお話でした。

そのような知識を日本人の方々が持たれて海外の方々と交流されているかということが、私はとても大事なことだと思います。

やっぱり自分の地域や自分の文化、そしてまた自分の国の歴史やすべてにおいて、ある程度の知識を持つということが大変重要で、美しい国づくりをしていくということの上においても、何のために私たちの国が美しい国でなければいけないのかとか、何が基本なのかということが、私はとても重要なことではないかと思うんです。

１．愛･地球博広報プロデューサーとしての活動

今日は、人々の交流と魅力ある国づくりを愛・地球博から学ぶというテーマをいただきました。皆様も、愛・地球博に何度も行かれた方々もいらっしゃれば、一度も行ったことがないということを自慢しておられる方もいらっしゃいますが、地元にいながら行ったことがないんですかと言うと、一度も行かなかった。と言われました。でも中には、行けなくて残念だったと、言ってくださる方もおられました。

私はとても大事だと思いますのは、もちろん愛・地球博に行ったか行かなかったということではなくて、むしろ愛・地球博の成果、これからここの地域をどのようにして、今まで万博に出てきたいろんな、ある意味では地元の財産であったり、国の財産であるわけですけれども、これをどのように活用していくかということがとても重要ではないかと思うんです。

愛・地球博にかかわり始めたときに、私は広報プロデューサーという肩書きをいただきました。私自身もどのように広報していけばいいのかということも最初はよくわからなかったんです。それはなぜかといいますと、国がする行事ですから、国家予算というのがあって、そして自分の国がやはり世界で知られていくということにおいては大変重要なことであるわけですから、当然、これは広告代理店や、日本のいろんな企業を挙げて、予算を引っ張ってきてするものなのかと思ったらば、大変びっくりしたのは、やはり限られている予算の中でやらなければいけなかったことが大変だったと思うんです。

それに、広報というのはどこに向けて広報するものなのかと。もちろん、日本の中での広報というのがすごく大事ではありますが、世界に向けての広報というのは、やはりタイム

ラグというのがあり、海外の方々の生活やライフスタイルを考えると、来年の夏休み、再来年の夏休み、冬休みというのは、外国の方々というのは、特に欧米ですと、もう大体１年前とか２年前に計画をしています。また、普段はミニ旅行でも５年に１度は大旅行をするような計画を立てますので海外客の誘客にはタイミングが必要になります。

特に、リタイアメントエイジを迎えようとしている団塊の世代のアメリカの方々は、そのリタイア記念に奥さんとアメリカ一周しようとか、またはキャンピングカーを借りて、すべての州を一回周ってみたいとかということで、毎年少しずつためて、大きい旅行のためにとか、または世界一周船旅をしようとか、いろんな計画があると思うんです。

ですから、万博に来るということもとても大変なことであって、身近な国というのは、私たちにしてみれば、これからこの東アジアというのが日本にとっても非常に身近なところで、むしろ名古屋から北海道へ行くのと、名古屋から今度韓国や、または中国に行くのと似たような距離のところもあるような場所もあり、そういうことから考えますと、拠点というのはどこの軸から物事を考えるかだと思うんです。ですから、非常に多くの海外から来られた方々の中には、やはりアジアから来てくれた方が非常に多かったと思います。もちろん、欧米や、またアフリカやいろんな地域からも来られていましたけれども、いろいろアンケートをとったところ、やはりアジアからの方々が非常に多かったようです。

そうしますと、万博というものを皆さんに知っていただくのに、その広報をするためには、欧米や遠い国ですともっと早くにしなければいけないわけですから、万博が始まる２年前からもう海外に出かけていって、南アフリカで地球環境サミットがあったときにご一緒させていただいて、そこで万博がありますのでぜひ来てくださいと言いますと、どこで万博があるんですかと聞かれました。それは中部地区の愛知県でと言いますと、東京の近くかと聞かれ、いや、東京と大阪の間ですと言うと、ああ、そうか。富士山の近くかと。富士山の近くではあるけれども、そんな近くではないと。そうしますと、外国の方というのは地理感覚がないわけですから、国のエクスポジションといいますと、当然、東京または自分たちがよく知っている場所で開催されると思うわけで、どうやって愛知県ということを皆さんに知らせるかということが大変でした。

いろいろ考えたところに、アメリカには、皆さんご存じのジョージア州ですが、そこのアトランタという町は、アメリカでは、『風と共に去りぬ』として有名な場所ですが、もう一つあります。アトランタの空港をおりますと、大きな看板が「ホーム・オブ・コカコーラ」と書いてあるんです。ここはコカコーラのホームタウンですよということを書いてあるわけなんですね。なぜ一空港が、自分たちの一企業を、私たちはこの一企業がここがホームですよということを掲げるかというと、コカコーラは世界の企業なんですね。ですので、別にアトランタで始まって、アトランタには本社機能はありますけれども、それでもやっぱりここでスタートしたんですということは自分たちにとってとても大きなPR効果になるものです。そのように言われていることを私は知っていましたから、外国人の方に言うと、やはり産業とか企業を言ったほうが早いと思って、愛知県の名古屋市周辺というのは、ホーム・オブ・トヨタ、ホーム・オブ・ノリタケ、三重県ですが、ホーム・オブ・ミキモトパールと言うと、ああ、そうかといってわかるんです。

別に場所がわかっているわけではないんですよ。ただ何となく自分の知っている名前の企業のある場所だからすごく身近にすっと感じるわけなんですね。ですから、私は地域のPRをしたときに、海外で名前を知られている企業を、ホーム・オブ・何とかというのを、名古屋駅をおりたらば全部書いちゃおうと。そういうことによって外国の方々によくわかっていただけますし、やはり産業というのは非常に強いものだと思いますので、世界中に知られているような企業があるのならば、ここの中でいろいろPRされる、そして逆に、PRをしていただけるということもすごく重要なことではないかなと思うんです。

２．万博の歴史とインフラの整備

そして、万博は、皆さんもご存じだと思いますけれども、今まで万博の歴史の中では、インフラ整備にとても大事な役割を果たしてきたわけなんです。フランスでも、博覧会を10年の間、何度か開催していますが、1800年代では、一番初め

に、皆さんよくご存じだと思いますけど、エッフェル塔ができたりとか、またはパリの北駅というのも万博のためにできたり、またはプチパレとかグランドパレという美術館が、それもパリ万博のためにつくられて、そして万博が開催されるたびに大きなインフラ整備としての建物ができそれがそこの地域のインフラになり、地域のストックになっていっています。

もちろん、観光のために今は非常にパリ市も頑張っているわけですが、フランス全体として、自分たちの売り物は文化であると、ですから、文化を大切にしていきましょうという１つの国家政策もあって、文化省というのがあるぐらいに、やはり文化というのは１つとても大きく欠かせないものであるということです。それで、この万博の中でインフラ整備ができ、最先端の技術というものを世界に発表していくということがとても大きなポイントの１つだったんです。

21世紀の万博はということになったときに、いろいろ議論もあったと思いますが、反対運動もありましたし、何のために今さら先進国が万博をみたいなことも言われたこともありました。やはり21世紀の新たな形の万博というのはどのように人類がこれから直面していくいろんな問題を解決していくのかということをちゃんとみんなで考えていくためにもとても重要だったと思います。

ですので、環境というテーマを大きく掲げた万博というのは21世紀初めてでありますし、今まで万博の歴史の中ではないことでした。とても大きなテーマが「自然の叡智と地球大交流」でした。自然の叡智から私たちは地球環境を大切にしていきましょうということが大きくありました。もう一つは、地球環境を守っていかなければいけない中で一番重要なことは、人々と交流をし、そしてお互いに理解を深め、そして環境の一番大きな破壊者というのはやはり戦争であるわけですから、お互いに交流し合ったり、理解し合ったり、人々との関係がもっと深くなっていくことによって、戦争や、そういういざこざというものも少しずつなくなってくれることを期待していました。

それと、博覧会というのはまたとても楽しい行事であって、おそらく今でも万博について、まだここの地域の熱がある意味冷めない部分というのは楽しかったからだと思うんですね。

それと、万博は、私たちに５年先の未来をちょっとのぞかせてくれたものなんです。万博というのは５年ごとに開催されるもので、これは大きな世界博ですけれども、今度2010年には上海で万博が行われます。彼らは「ベター・シティー、ベター・ライフ」というとても大きなテーマを掲げていますが、この「ベター・シティー、ベター・ライフ」というものを考えたときに、絶対に欠かすことができなくなってしまったのは環境なんです。愛・地球博では、５年先の未来をいろんな形でのぞかせてくれたものがありますが、幾つかのテーマの中で、これから人類が直面していく問題の中に、もちろん環境と、食糧問題、またエネルギー問題、それともう一つは、異文化の相互理解ということでした。

更に、インフラ整備の面から話しても、リニモができたり、あとは駅からシャトルバスを運行させたりし、パーク・アンド・ライド方式を導入してなるべく公共交通を使いましょうということを皆さんに伝えることにしました。日本ではパーク・アンド・ライドというのはなかなか難しいものなんですが、欧米に行きますとパーク・アンド・ライドが非常に当たり前な理由の１つには、駅というものの周辺にはあんまり商業施設というものをつくらないで、むしろ、ほんとうに移動するだけの機能になっています。地域によっては、大きな駐車場しかないような駅というのはアメリカではよく見ますが、そこでパークして、電車にライドして、自分の仕事先に出かけていくということです。日本の中では今まで非常に難しかったところが、このパーク・アンド・ライド方式というものも今回は非常に評価されましたし、あとまた、団体バスで動くことで地球環境に優しい行動しましょうということにしてきたわけなんです。

最先端技術の中でのいろんな乗り物の中には、先ほど申し